

あんずサイダー

【福津市】

春に約2500本のあんずの花が咲く福津市のあんずの里運動公園。ここで収穫したあんずを使用した「あんずサイダー」は、サイダーの生産地・佐賀県唐津市とあんずの収穫量日本一の長野県松本市の2市とのコラボにより誕生したご当地ドリンクです。

一口飲むと、ふんわりとあんずの爽やかな酸味が口中に広がり、微炭酸で後味すっきりなのが特徴です。商品ラベルは九州大学の大学院生がデザインしました。

「カットフルーツを浮かべてフルーツポンチにしたり、お酒を割ってカクテルにしたり、アレンジも楽しめますよ」と語るのは、販売先のあんずの里市のスタッフで商品開発にも携わった花田砂恵子さんです。

「あんずサイダー」はあんずの里市でしか販売されておらず、「あんずジャム」や「あんずでポン酢」などあんずの商品を詰め合わせたセットも人気です。



スタッフの花田砂恵子さん。花田さんのお母さまも「あんずサイダー」の大ファンとのこと



4月にリニューアルして売場が広がったあんずの里市。地元で採れたキャベツやトマトなど新鮮野菜や切り花、交流を続ける長野県の特産コーナーが人気

暑い季節にぴったりの「あんずサイダー」は、平成24年に誕生。年間2000本の売り上げを誇る

近隣には、海水浴場や「新原・奴山古墳」

をはじめとした「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」もあります。ぜひ「あんずサイダー」を片手に夏の福津市へ出かけてみませんか。

問い合わせ：あんずの里市
☎0940-52-5995 ファクス0940-52-5999
営業時間：8時30分～17時 定休日：第2木曜日・盆・年末年始

Do you know Fukuoka?

知ってる？ 福岡県 vol.9

久留米絣を発案した13歳の少女・井上 伝

国から指定を受けた県内7つの伝統的工芸品の一つであり、その技法が重要無形文化財にも指定されている久留米絣。実は、最初に考案したのは13歳の少女だったのをご存じですか？

少女の名は、井上伝(1788-1868)。江戸後期、着物は木綿を藍染めした単調なものがほとんどでしたが、何度も洗ううちに色が落ちて白い斑点が浮かび上がります。伝は、「斑点が柄になっていたら美しいのに」と思い、着物をほどこいて研究し、失敗を重ねながら白い模様が入った着物を織り上げ、「加寿利」と名付けました。



久留米絣を愛し、職人の育成にも力を注ぐ池田光政さん

久留米絣はたちまち評判になり、伝は機織りで家計を助ける女性たちに惜しみなくこの技法を紹介し、多くの人々に感謝されました。



柄もデザインも無限に広がる久留米絣。さまざまなコラボレーションで魅力を発信！

時代の変化を受けながらも、200年以上続く伝統的工芸品となった久留米絣を後世に伝えたいと語るのは、久留米絣協同組合の理事長・池田光政さんです。



多いときは1000人もの弟子がいたとされる井上伝

「最近若い女性にもんぺの人气が高く、まだまだ可能性を感じています」と語ります。久留米絣の魅力は、夏は涼しく冬は温かく、着るほどに肌になじみ風合いが増すことです。9月は広川かすり祭り、11月は全国の伝統的工芸品が一堂に集まる伝統的工芸品月間国民会議全国大会が福岡県で開催されます。今年は、伝の没後150年。歴史をたどりながら久留米絣の魅力に、ぜひ触れてみてください。

久留米絣展示・販売については
地場産くるめ・久留米絣資料館
☎0942-44-3700 ファクス0942-43-1020
ひろかわ藍彩市場
☎0943-32-5555 ファクス0943-32-5556